

## 基本目標3

## 産業・経済

地域に根ざした産業で  
にぎわいと豊かさあふれるまち

東京都心からのアクセスの良さを活かした観光業や恵まれた気候・風土のもとで培われてきた農水産業、地域の拠点性の高さを利用した商工業など、従来からの基幹産業においては、地域の特性に根ざした、独自の魅力に磨きをかけます。

また、それぞれの産業を連携させながら、外からの視点を取り入れた新たな価値の創造やネットワークの構築により、「館山ならではの」特色ある産業の創出と振興を目指します。

さらに、企業誘致や起業支援等による多様な雇用の場の創出と、きめ細かな就業支援により、安定した雇用機会を提供するとともに、移住・定住の促進や交流拠点施設を核とした地域活性化により、定住人口・交流人口の増加を図り、にぎわいと豊かさあふれるまちを目指します。

## 第1節 観光の振興

- (1) 海の魅力を活かした観光振興
- (2) 観光の魅力を高める資源の活用
- (3) ブランド化の推進
- (4) 観光PRの強化

## 第2節 農水産業の振興

- (1) 農水産業の活性化
- (2) 農水産業の担い手育成支援
- (3) 農業基盤の整備
- (4) 水産業の基盤整備

## 第3節 商工業の振興

- (1) 商工業の振興

## 第4節 新たな雇用の創出と就業支援の強化

- (1) 新たな雇用の創出
- (2) 就業支援の強化

## 第5節 移住・定住の促進

- (1) 移住・定住の促進

## 第6節 交流拠点施設を核とした地域活性化

- (1) 交流拠点施設を核とした地域活性化



## 第1節 観光の振興



### 基本方針

- 館山湾をはじめ、「渚の駅」たてやま、「館山夕日栈橋」等を活かした観光施策の充実を図り、来訪者の増加につなげます。
- 海水浴場の利用者が安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に努めます。
- リピーターや宿泊客の増加を目的として、市内の事業者や各種団体、近隣市町等の多様な主体と連携し、来訪者のニーズに対応した満足度の高い観光地を目指します。
- 外国人旅行客の受入態勢の促進を図ります。
- 農産物や海産物のブランド化を推進するとともに、様々な観光資源を組み合わせたPRにより、観光地としての「館山ブランド」の魅力向上を図ります。
- 特色ある観光イベントの実施やパブリシティ\*による効果的・戦略的な情報発信により、館山市の知名度向上や交流人口の増加に努めます。

### 現状と課題

- 館山市では、『館山湾振興ビジョン』の7つの戦略に基づき、「館山夕日栈橋」や交流拠点「渚の駅」たてやまなどを核として、館山湾を活用した「海辺のまちづくり」を進めています。今後は、社会経済情勢を踏まえ、必要に応じて『館山湾振興ビジョン』を見直しつつ、市内外から高く評価されている館山の海の魅力に更なる磨きをかけていくことが大変重要です。
- 海辺の楽しみ方は、時代とともに移り変わり、多様化しています。館山市では、平成27年7月、千葉県下で初となる『安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例』を制定し、海水浴場を訪れる観光客等が安心・安全に楽しめる環境づくりに取り組んでいます。今後も、条例や「海・浜のルールブック\*」の周知を図るとともに、関係機関と連携して海水浴場の利用者が安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に努め、館山の海のイメージアップを図っていく必要があります。
- 市内には、水上オートバイを降ろすことができる海岸があり、揚げ降ろし作業を行う民間事業者が数軒あります。水上オートバイの海岸での航行は違法ではありませんが、一部の者による悪質な危険操縦や海岸駐車場の場所取りが問題となっています。
- 観光客数・宿泊客数とも近年は横ばいから微増傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、令和2年は観光客数・宿泊客数とも激減し、館山市の観光産業は大きな打撃を受けました。今後は、感染症の世界的な動向を見据え、観光地としての安全性を確保しつつ、国内観光客・外国人観光客を改めて惹きつけていく必要があります。このため、安房地域一体となった広域連携により安房地域をひとまとまりの旅行目的地としてPRすることで、滞在型の観光地づくりを更に推進していくことが求められます。加えて、NPO法人等、

関係団体との連携を強化し、海と山の豊かな自然を活かした体験型ツーリズムの促進や新たな体験観光メニューの開発などにより「館山ならではの」特色ある観光を実現し、ワーケーション\*等による新たな客層の獲得に努めることも重要です。

- 館山市は、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、「房州鮎\*」に代表される新鮮な海産物や豊かな大地ではぐくまれた多彩な農産物、加えて、戦国大名里見氏ゆかりの史跡や寺社、首都東京防衛の歴史を物語る戦争遺跡、さらには、温泉や魅力ある海を活かしたスポーツ観光等まで、多種多様な観光資源を有しています。今後は、食・自然・歴史文化などの地域資源を最大限に活かした観光地としての「館山ブランド」の更なる魅力向上が望まれます。
- 東京湾アクアライン、東関東自動車道館山線等によりアクセス性が飛躍的に向上し、“東京都心に近い自然豊かな観光地”としての価値が高まっています。この機を捉え、館山市の魅力を国内外に広くPRして観光客の増加につなげていくため、市を挙げた横断的な取組が求められます。また、メディア\*への積極的なアプローチも含め、シティプロモーション\*による戦略的情報発信などを強化していく必要があります。

## ■ 市民意識

観光の振興	満足・やや満足	21.5%
	どちらでもない	40.9%
	やや不満・不満	27.2%

## ■ 施策の展開

### (1) 海の魅力を活かした観光振興

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 『館山湾振興ビジョン』に基づく海辺のまちづくりの推進	「館山夕日栈橋（館山港多目的観光栈橋）」の利活用など、『館山湾振興ビジョン』に示された7つの戦略を推進するとともに、必要な見直しを行います。	観光みなと課
海路の充実	旅客船の定期航路化や寄港船舶の増加に向けた取組を行うとともに、季節運航の利用客増加に向けた積極的なPRを行います。	観光みなと課
海岸利活用事業	館山港を拠点に、ウミホテル観察会や釣り大会など、海を活用したイベントを促進し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。また、北条海岸芝生広場などの海浜エリアを活用し、イベントの開催を支援するなど、海岸や砂浜のにぎわいを創出します。	観光みなと課

海・浜空間利用者のマナー向上	千葉海上保安部館山分室、千葉県警察館山警察署、千葉県、民間団体等の関係機関と連携し、安心・安全に楽しめる海・浜空間の確保に向けた取組を実施します。また、海・浜空間利用者のマナー向上を図るため、『安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例』及び「海・浜のルールブック」の普及・啓発に努めます。	観光みなと課
<b>重点</b> 水上オートバイ対策	海水浴客と水上オートバイ利用者のエリア分けの可能性及び水上オートバイの適正な運航やマナー向上について、千葉海上保安部館山分室、千葉県警察館山警察署、千葉県、漁協や民間団体等の関係機関、利用者、事業者と協議・検討する場を設けるとともに、海岸管理者である千葉県に対し、水上オートバイの危険操縦や騒音等を規制するための条例制定、登録制の導入などについて要望を行います。	観光みなと課
海水浴場の開設	館山市の重要な観光資源である美しい砂浜・海岸を維持するとともに、海水浴客が安心・安全に利用できる海水浴場を開設します。	観光みなと課
特定地域振興重要港湾 館山港の整備・利用の促進	旅客船や多様な船舶の寄港に関わるポートセールス*を推進するとともに、「館山夕日栈橋」の整備拡充に向けて、国・県への要望活動を行います。	観光みなと課

## (2) 観光の魅力を高める資源の活用

計画事業名	事業内容	担当課
観光産業活性化支援事業	館山市観光協会や館山市温泉事業組合等に対して支援し、ニーズに合った観光振興施策と新たな観光メニューの開発を促進します。	観光みなと課
広域連携による観光プロモーション	近隣市町や民間団体で組織する南房総観光連盟、宿泊・滞在型観光推進協議会等において、より効果的な取組について検討し、広域的な観光振興を図ります。	観光みなと課
インバウンド観光の推進	台湾をメインターゲットとしたインバウンド観光を推進するとともに、館山インバウンド協議会等との協働による誘致活動を継続することにより、外国人観光客の増加に努めます。	観光みなと課
体験型ツーリズムの促進	海や山の恵まれた自然、歴史や戦争遺跡等の文化財、温暖な地ではぐくまれる農産物、豊かな海に生息する魚介類など、館山市の多様な観光資源を活用し、体験型ツーリズムの促進と積極的な情報発信を図ります。	観光みなと課

グリーン・ブルーツーリズム*の推進	農作業体験や市民農園等の観光農業、観光定置網等の観光漁業などと連携した体験観光を推進し、交流人口の増加に努めます。	農水産課
観光施設管理事業	来訪者が迷わず安心して観光施設巡りができるよう、観光施設案内サイン等の充実を図ります。また、来訪者が快適に過ごせるよう、公衆トイレの美化及び洋式化を推進します。	観光みなの課

### (3) ブランド化の推進

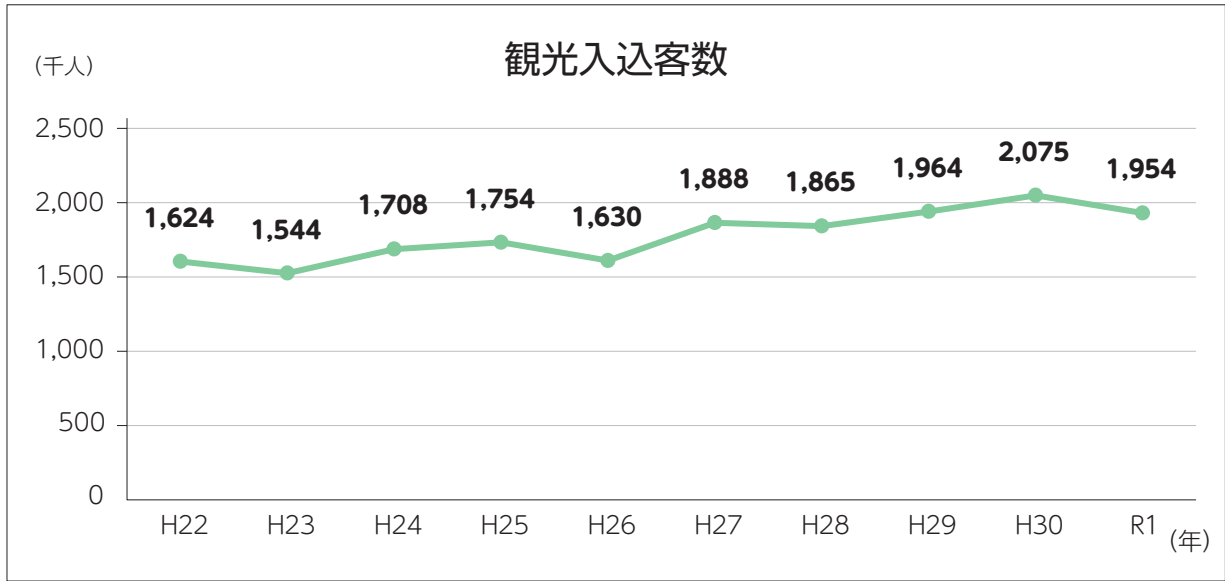
計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 食のブランド化の推進	ご当地グルメや房州鮎、果物狩り等の優れた観光物産に加え、新たなグルメの開発やブラッシュアップ、積極的なPRなど、民間団体等と連携した「食」のブランド化を推進します。	食のまちづくり推進課
「館山ふるさと大使*」・「館山ふるさと特使*」制度による館山市のPR及び域内活動の活性化	国内外で活躍している館山市出身または館山市にゆかりのある方に大使・特使を委嘱することにより、全国に向けて館山市の魅力を発信します。	企画課

### (4) 観光PRの強化

計画事業名	事業内容	担当課
観光イベント事業	「たてやま海まちフェスタ」や「館山湾花火大会」を中心とした館山観光まつり、「南総里見まつり」等の観光イベントを民間団体と連携し、特色あるイベントとして開催します。	観光みなの課
観光情報の発信・PR	海や花などの自然、歴史文化、体験、食、温泉等の優れた観光資源を組み合わせ、メディアへの積極的なアプローチを行います。また、ロケーション支援、観光パンフレットの作成、マスコットキャラクター「ダッペエ」の活用、各種キャンペーンの実施等によるプロモーションを通じて、観光地としての魅力を高め、観光客数の増加に努めます。	観光みなの課

■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
観光入込客数	195.4 万人	230 万人
宿泊客数	39 万人	50 万人
外国人宿泊客数	2,168 人	2,200 人



高速ジェット船と帆船日本丸



## 第2節 農水産業の振興



### 基本方針

- 農水産物の販路拡大や地域ブランド化の確立に取り組み、農水産物の収益拡大と農水産業の経営安定化を目指します。
- 農水産業の持続的な発展のため、担い手の育成や経営強化に対する支援を継続して行います。
- 農業生産基盤の整備や農地の維持保全のための取組を強化し、生産者の所得の向上と経営安定化を図ります。
- 漁業協同組合や漁業者に対する経営安定化支援と水産資源の維持・増大に向けた支援を継続して行います。

### 現状と課題

- 館山市は、温暖な気候と緑豊かな大地、沖合には黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有することで、花や果実、野菜などの多彩な農産物や新鮮な海産物など、自然の恵みを楽しんできました。「西岬ひまわり」や「房州いちご」、「神戸レタス」、「房州枇杷」、「房州鮎」などに代表されるブランド化された農水産物については、市民意識調査でも高く評価され、いずれも重要な観光資源となっています。
- 今後は、このような自然の恵み、農水産業環境を最大限に活かすため、農水産物の更なるブランド化、農水産業の6次産業化\*、ICTを活用したスマート化などを進め、高い付加価値を実現して活性化を図っていく必要があります。
- 農水産業においては、従事者の高齢化と減少が進んでおり、産業を維持するためには、後継者の育成・確保が喫緊の課題となっています。農業については、近年の就農形態はUターン者や新規参入者、雇用就農\*者など、従来と大きく変化しており、次世代を担う新たな就農者を確保するためには、就農環境の整備が必要です。また、それらの新規就農者を定着させていくためには、関係機関及び地域農業者等が一体となり、多面的な支援を継続していくことが重要です。これは、水産業においても同様であり、各種水産業関連団体への支援などを通じ、後継者の育成・確保を図っていく必要があります。
- 農業の担い手減少は、耕作放棄地の拡大にもつながっています。それにより、有害鳥獣\*による被害が拡大し、農業経営に大きな打撃を与えています。農業の振興のためには、これまでの生産体制を維持するだけでなく、地域の活動による耕作放棄地対策や地域内に分散した耕作地の集約化・有効活用、飼料用米などの戦略作物の生産を推進することが不可欠です。さらに、農作物被害防止のために捕獲されるイノシシ等の処分施設の整備やジビエ\*による有効活用を図ることで有害鳥獣対策を強化するなど、様々な取組により農地を保全し、生産者の所得向上と経営安定化を図る必要があります。

- 水産業においては、漁獲高の減少と魚価の低迷、漁業従事者の減少等が続いています。市内漁業協同組合の合併をもとに経営基盤の強化や漁業施設の近代化・省力化などを行い、経営安定化を促すとともに、栽培漁業や藻場の再生への支援、漁港の集約と利活用などに努め、水産業の基盤整備を進めていく必要があります。

## ■ 市民意識

農水産業の振興	満足・やや満足	14.5%
	どちらでもない	51.3%
	やや不満・不満	22.4%

## ■ 施策の展開

### (1) 農水産業の活性化

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 農水産物の6次産業化の推進	農漁業従事者が主体となり、加工や販売等を行う事業者と連携しながら、地域資源である農水産物等の付加価値向上を図る6次産業化を積極的に推進します。	農水産課
<b>重点</b> スマート農業*の推進	農業の効率化や経営規模拡大のためにIoT*やAI*などの先進技術を導入することにより、スマート農業の普及を推進します。	農水産課
地産地消の推進	地域で生産されたものを、その地域で消費する「地産地消」を推進し、地域の農水産業と関連産業の活性化を図ります。	食のまちづくり推進課
船形漁港周辺の活性化	都市計画道路*船形館山線(船形バイパス)の整備に併せ、館山市の北の玄関口の核となる船形漁港を中心としたにぎわいを創出します。	農水産課

### (2) 農水産業の担い手育成支援

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 農業の担い手育成・確保と組織的な営農スタイルへの後押し	認定農業者*や新規就農者等の育成・確保に加え、企業参入や農業法人化*、地域ぐるみの組織的な農業経営体などの育成・確保を図るとともに、定年後のリタイア層や都市部からの移住者などの多様な担い手の育成・確保を図ります。	農水産課
地域農業活動支援事業	高齢化と後継者不足を抱える農村環境の改善や水路・農道等の維持管理を継続していくため、多面的機能支払交付金制度の活用や小規模土地改良事業、補修用材料の交付を行います。	農水産課



水産振興支援事業	水産業の振興と漁業経営の安定化のため、漁業後継者の育成や栽培漁業の実践、水難事故の救済等を行っている各種水産業関連団体を支援します。	農水産課
----------	--	------

### (3) 農業基盤の整備

計画事業名	事業内容	担当課
環境と調和した農業の推進	化学肥料や農薬の使用低減、農業用廃プラスチックの適正処理など、環境との調和に配慮した農業を推進します。	農水産課
畜産振興支援事業	畜産業者に対し、酪農ヘルパー*の利用普及促進や補助事業の活用による畜産施設等の整備促進、家畜伝染病の予防、乳牛の飼育・改良指導等を行います。	農水産課
<b>重点</b> 有害鳥獣対策事業	イノシシ等の有害鳥獣による農作物等の被害を防ぐため、館山有害鳥獣対策協議会の活動を支援するとともに、地域ぐるみの取組を促進し、防護柵の設置や狩猟免許の取得を促すほか、県及び近隣市町との広域的な連携に取り組みます。また、捕獲個体の処分施設の整備による省力化並びに食肉加工施設の整備によるジビエの活用に取り組みます。	農水産課
農業生産基盤の整備	農業施設の維持管理や農地の区画整理を推進し、農業の生産性の向上を図ります。また、令和元年房総半島台風被害からの復興促進により、農業生産基盤の回復・維持に努めます。	農水産課
<b>重点</b> 農地の保全と有効活用	耕作放棄地の再生・有効活用・発生防止に努めるとともに、農地中間管理機構*を活用した担い手への農地集積・集約化を促進し、生産者の所得向上や農村環境の維持保全を図ります。	農水産課
農業経営安定化の支援	農業経営の合理化や近代化を図る農業者に対し、農業近代化資金利子補給や農業経営基盤強化資金利子補給等により、経営安定化を支援します。	農水産課
中山間地域*の活力維持	山間部などを拠点とする農業者等に直接支払交付金を交付し、農業生産活動の維持や農地の多面的な機能の確保に努めます。	農水産課

### (4) 水産業の基盤整備

計画事業名	事業内容	担当課
漁業経営支援事業	市内の漁業協同組合の合併促進や新規漁業就業者の増加に向けた取組とともに、漁業施設の近代化・省力化や共済制度への補助等による漁業者への経営安定化を支援します。	農水産課

栽培漁業支援事業	稚貝や稚魚の放流、藻場調査や磯根漁場の改良、養殖漁業の導入に向けた取組を支援し、魚介類の安定供給の確保を目指します。	農水産課
漁港利活用事業	漁港の集約の検討や『漁港機能保全計画』の策定、漁港維持工事の実施とともに、県営漁港改修工事負担金を支出します。	農水産課

■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
地産地消推進店 * 数	132 店	170 店
認定農業者数	114 人	現状維持
市内農業法人数	14 法人	現状維持
新規捕獲従事者数	22 人	(5 力年累計) 50 人
新規漁業就業者数	2 人	(5 力年累計) 15 人



献上いちご選果式



## 第3節 商工業の振興



### ■ 基本方針

- 地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援し、地域経済の活性化・発展を目指します。
- ふるさと納税制度の推進により、地場産業の振興を図ります。

### ■ 現状と課題

- 館山市は、安房地域の経済と文化の中心地であり、特に商業は、地域経済を支える重要な役割を果たしてきました。しかし、近年、人口減少や消費者ニーズの多様化、担い手の不足、大型商業施設の郊外進出等により、中心市街地の空洞化が一層進み、商店街の空き店舗も増加していることから、「リノベーション\*まちづくり」を推進し、遊休不動産を活用した起業・創業の促進や雇用の創出等を図る取組が必要とされています。
- これまで市では、キャッシュレス化\*等に向けた環境整備など、館山商工会議所や各商店会との連携のもとに、魅力ある商店と商店街づくりを進めてきました。今後もこれらの取組を継続し、中心市街地の商業活性化に努めていく必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行により市内への来訪者が激減したことなどから、市内商工事業者の経営は大きな影響を受けています。このため、市・商工会議所・市内金融機関などの連携のもとに、商工事業者の経営安定化を図っていく必要性が今まで以上に高まっています。また、経済産業大臣指定の伝統的工芸品\*である「房州うちわ\*」を含め、商工経営者と技術者の後継者育成を支援していく必要もあります。
- 館山市における商工業振興には、商工会議所が大きな役割を果たしています。今後も、組織の維持強化に向けた支援を継続して行うとともに、産業振興に関連する諸制度を活用し、地域経済の発展につなげていくことが重要です。また、ふるさと納税の返礼品等を通じ、地場産業の更なる活性化を図ることも重要です。
- まちの活性化のためには、館山駅周辺の店舗や土地を有効に活用し、起業・創業を志す人が事業を始めやすい環境づくりも重要です。このため、店舗や土地と起業・創業を志す人のマッチング等を支援していくことも大切です。
- 館山市内の事業者の高齢化により、事業承継が喫緊の課題となっています。千葉県事業引継ぎ支援センターと連携し、事業承継セミナーの開催や同センターの支援等の周知を図り、事業承継に関する様々な課題を解決するための支援を実施することが重要です。

## ■ 市民意識

商工業の振興	満足・やや満足	8.3%
	どちらでもない	49.3%
	やや不満・不満	30.1%

## ■ 施策の展開

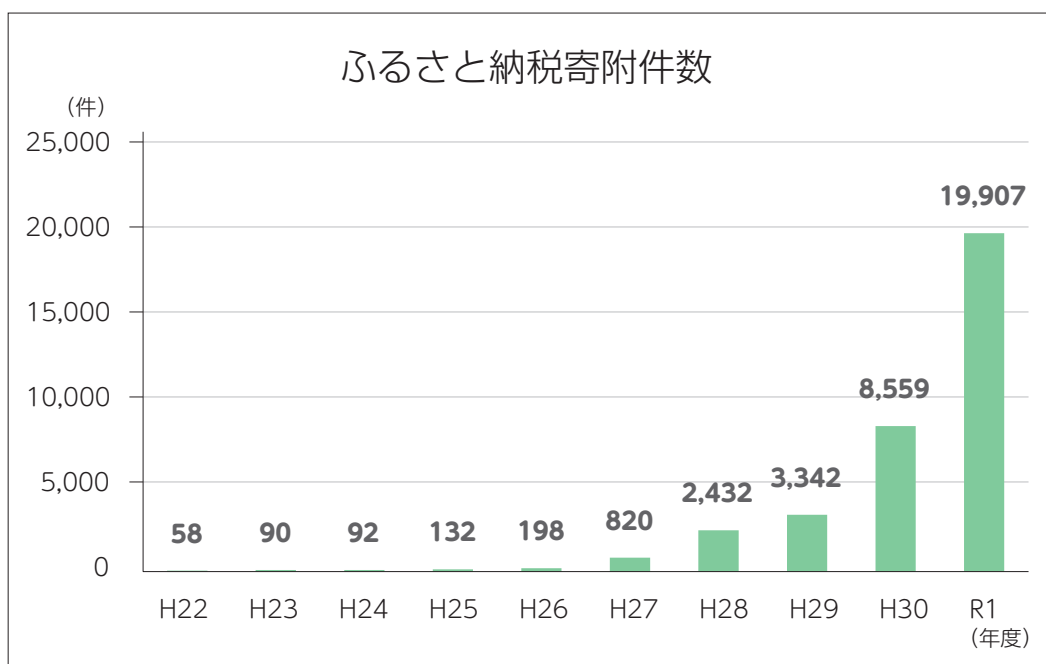
### (1) 商工業の振興

計画事業名	事業内容	担当課
商店街活性化支援事業	商店街のキャッシュレス化等の環境整備を推進するとともに、商店街での起業や事業承継を支援するなど、市・商工会議所・商店街等が連携し、魅力ある商店・商店街づくりやにぎわいのあるまちづくりの形成を目指します。	雇用商工課
中小企業融資事業	館山商工会議所及び市内金融機関と連携し、中小企業が資金融資を円滑に受けられ、経営の安定化につなげられるよう、館山市の各種融資制度により支援します。	雇用商工課
伝統的工芸品活性化事業	地域を代表する伝統的工芸品である「房州うちわ」、「君万歳久光*」、「房州鎌*」、「唐棧織*」の振興を図ります。また、房州うちわ振興協議会に対して支援し、「房州うちわ」の伝統工芸士の後継者育成・確保を目指します。	雇用商工課
商工関係団体支援事業	館山商工会議所・館山市商店会連合会・館山たばこ販売組合に対して助成し、団体の団結力や組織力の育成・強化を図り、各団体が地域経済発展の主導的な役割を果たすよう支援します。	雇用商工課
持続可能で倫理的な消費の普及・啓発	SDGsの12番目の目標である「つくる責任つかう責任」の実現に向け、フェアトレード*商品の購入や地産地消など、人や社会、環境などに配慮した消費行動を促進するため、消費者・事業者・行政が連携して、市民への倫理的な消費(エシカル消費*)の普及・啓発を行います。	企画課 市民協働課 雇用商工課
<b>重点</b> ふるさと納税(ふるさと寄附金)制度の推進	ふるさと納税制度を活用し、寄附者に対して館山市の地場産品やサービスなどの返礼品を通して市の魅力を発信することにより、更なる寄附者の増加を目指すとともに、地場産業の振興を図ります。	企画課
半島振興法による諸制度の利活用の検討	『半島振興法』に関する制度改正等を注視し、対象企業に対して制度を適用するとともに、民間企業等への制度周知による積極的な活用を推進します。	企画課

<p><b>重点</b> リノベーションまちづくり事業</p>	<p>まちの建物や空間の新しい使い方と創業希望者などの担い手とをマッチングさせるためのリノベーションスクールを開催することにより、館山駅周辺地域等の空き店舗や未利用地の有効活用を図ります。また、リノベーションスクールの受講生等が事業展開しやすくなるような環境整備を推進します。</p>	<p>雇用商工課</p>
-------------------------------------	--	--------------

■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
商業地における空き店舗・空き地有効活用数	3件	(5カ年累計) 15件
ふるさと納税返礼品として登録する地場産品	250品目	300品目



## 第4節 新たな雇用の創出と就業支援の強化



### 基本方針

- 企業誘致の推進や創業支援などにより、地域における安定した雇用機会の創出を図ります。
- 求人・求職のミスマッチ解消や医療・介護・福祉人材の確保に向けた支援を行い、地域の雇用ニーズに応じた就業支援を図ります。

### 現状と課題

- 館山市ではこれまで、企業誘致のほか、地元での就職希望者と企業とをマッチングするジョブサポート事業や、専門学校との連携による医療・介護・福祉人材の確保に向けた取組を進めてきました。新型コロナウイルス感染症の影響により「働き方」が変革する中、多彩な働き方を支援する環境整備も求められる等、雇用創出と就業支援をめぐる環境も大きく変化しています。
- 新たな雇用の創出には、これまで進めてきた企業誘致やハローワーク・近隣市町と連携したマッチング機会の提供、人材育成だけでなく、起業・創業支援や研究機関の誘致など多様な取組が必要です。
- 企業立地の自由度の高まりを背景とした積極的な企業誘致や地域資源を活かした研究機関の誘致などに取り組むとともに、ワンストップ相談窓口の設置や起業・創業セミナーの開催などにより、起業を志す人々を支援していくことが重要です。
- 超高齢社会において、医療・介護・福祉分野の充実は重要な課題です。安房地域の医療福祉体制は全国的にも恵まれており、地域の就業の場としても重要な位置付けとなっていますが、看護職や介護職などの担い手不足は深刻で、全国的な人材の奪い合いとなっており、人材確保に向けた支援の強化がより一層重要となっています。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都市部では多くの企業がテレワーク\*を実施しており、インターネット環境を活用した働き方が注目を集めています。こうした働く場所にこだわらない就業形態は今後も増えてくることが予想されるため、館山市がワーケーションなど新しいワークスタイルの適地であることをアピールしていく必要があります。

### 市民意識

新たな雇用の創出と就業支援の強化	満足・やや満足	6.0%
	どちらでもない	37.7%
	やや不満・不満	46.1%

## ■ 施策の展開

### (1) 新たな雇用の創出

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 魅力ある雇用の創出	雇用の需要と供給のバランスを整え、多様な職種選択等に対応できる雇用対策を推進し、魅力ある安定した雇用の場の創出に努めます。	雇用商工課
<b>重点</b> 企業誘致推進事業	企業誘致を推進するため、企業訪問や市内企業の情報収集、市内進出希望の企業へのフォローアップを行うとともに、事業者に対して支援します。	雇用商工課
起業促進支援事業	ワンストップ相談窓口の充実や創業支援セミナーの開催、起業支援補助金や融資制度などによる支援を行い、起業者数の増加を目指します。	雇用商工課

### (2) 就業支援の強化

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 雇用の需要と供給のマッチング強化	ハローワークや近隣市町、事業者と連携・協力し、地域の雇用ニーズを捉えた求職セミナーの開催や求人情報の提供等により、求人・求職のマッチングの機会を増やすとともに、働きたくなる環境整備と地域人材の育成により、就業支援を図ります。	雇用商工課
<b>重点</b> 介護・福祉人材の確保に向けた支援	これからの超高齢社会に対応するため、各介護施設等で不足する介護・福祉人材の確保を支援することにより、高齢者福祉・介護サービスの充実を図ります。	高齢者福祉課

## ■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
求職者を対象としたセミナー開催数	3回	(5カ年累計) 10回
企業立地奨励金・雇用奨励金件数	2件	(5カ年累計) 5件
起業・創業者数	6人	(5カ年累計) 40人

## 第5節 移住・定住の促進



### ■ 基本方針

- 若者世代の転出抑制や移住・定住を促進する取組を強化し、過度な人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図ります。

### ■ 現状と課題

- 館山市では、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状態が長期にわたり継続しています。その傾向は、高齢化の進行とともに強まっており、市の人口減少の大きな要因になっています。また、進学や就職等による若年層の流出が多く、結婚・出産適齢期の人口が減少することにより、更なる出生者数の減少につながっています。
- 他方、転入・転出の状況を全体的に見ると、転入者数が転出者数を上回る「社会増」の状態となる年もあることから、人口減少を抑制し、まちの活力を維持するためにも、転出者数を抑え、転入者数を増やす取組が大変重要です。特に、若い世代の移住・定住の促進に注力する必要があります。
- 引き続き、働き方改革が進み、居住地選択の自由度が高まっていることから、関係団体等と連携しながら、相談体制の充実、情報の提供、空き家バンク\*の有効活用等に努め、移住を考える都市住民などを支援していくことが必要不可欠です。
- 都心部からの近接性と豊かな「自然」や「食」、「体験」など多様な地域資源は館山市の強みであることから、インターネット環境を活用したテレワークやワーケーションなど新しいライフスタイル・ワークスタイルを都市部の企業や住民にPRし、二拠点居住\*や移住・定住につなげていくことが重要です。
- また、居住地選択の際、子どもの教育環境が相当に重視されると考えられることから、大学等との連携による地域の教育力の向上や関係機関との意見交換を通じ、市内高校の魅力化を支援することも喫緊の課題となっています。
- さらには、現在は館山市を離れ、他の地域で活躍する出身者やビジネス・観光等で訪れたことをきっかけに館山市に関心をもつようになった人々などを広く関係人口と捉え、まちの活性化への参画を促すことも必要です。



## ■ 市民意識

移住・定住の促進	満足・やや満足	11.5%
	どちらでもない	53.1%
	やや不満・不満	24.3%

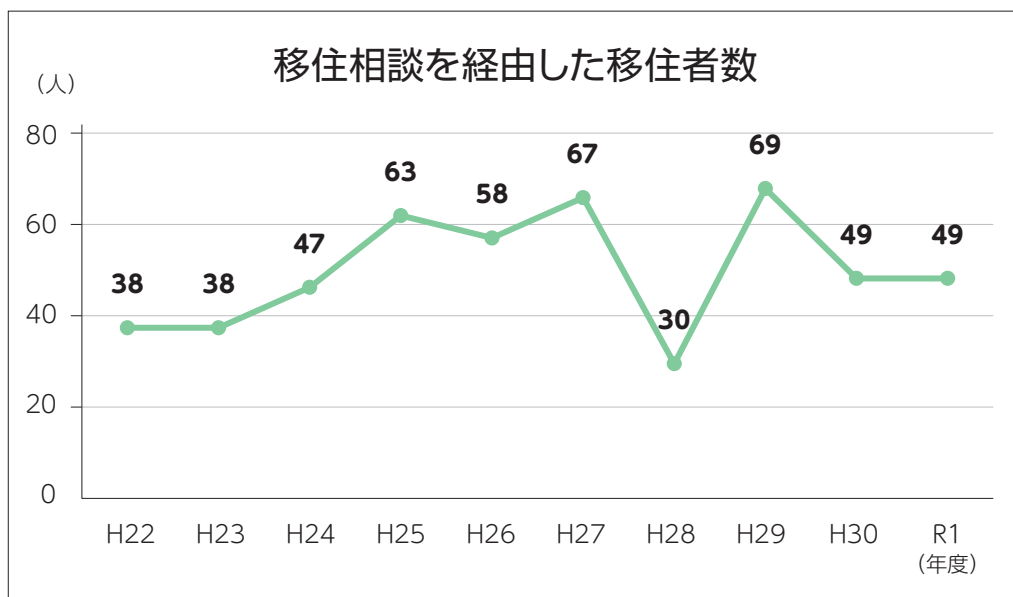
## ■ 施策の展開

### (1) 移住・定住の促進

計画事業名	事業内容	担当課
<b>重点</b> 移住・定住促進事業	NPO法人及び関係機関と連携した移住・定住相談体制の充実、関連イベントの実施、最新地域情報の提供、空き家バンク制度の利用促進など、移住・定住の促進につながる支援や移住しやすい環境の強化を図ります。	雇用商工課
大学等と連携した教室の開催	市内に施設を有する大学や連携協定を締結した大学等に対し、市民や子ども向けの教室の開催や市との連携による共同研究の推進についての働きかけを行い、地域の学ぶ力の向上を目指します。また、空き公共施設等を活用し、市内で活動する学生や研究室の拠点を設け、新たな「知の拠点」の創出を目指します。	企画課
市内高校ブランド化支援事業	市内高校のブランド化に向けた高校との意見交換を実施するとともに、市内外の中学生や子育て世帯の移住者から“選ばれる高校”になるために、各高校の魅力が向上するための支援を行います。	企画課
<b>重点</b> 地域資源・人的資源の活用による関係人口創出事業	「恋人の聖地* / 鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山」を活用した事業等を実施し、カップルの出会いや思い出、再会の場を提供することにより、移住・定住やUターンの促進を図るとともに、関係人口の創出を目指します。	企画課 雇用商工課

## ■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
移住相談経由の移住者数	49人	(5カ年累計) 250人
出会い・婚活支援事業開催数	0回	(5カ年累計) 5回
「恋人の聖地」パスポート優待特典店舗・施設数	10店舗等	16店舗等



都内での移住相談会



## 第6節 交流拠点施設を核とした地域活性化



### ■ 基本方針

- 交流拠点「渚の駅」たてやま」の機能強化と魅力向上により、来館者数の増加を図るとともに、観光情報の拠点として、旬の観光情報を提供します。
- 地域の農水産資源を活用した「食のまちづくり」の推進と拠点施設の整備により、地域産業の活性化と雇用の創出につなげます。

### ■ 現状と課題

- 「渚の駅」たてやま」は、旧県立安房博物館を利活用し、海と陸とを結ぶ交流拠点として整備されました。海辺のにぎわい空間の創出を目的とする「みなとオアシス\*」(国土交通省認定)にも登録された、地域活性化の核となる施設です。今後は、駐車場不足への対応や経年劣化が著しい施設の改修、効率的な施設の管理・運営方法等を検討するとともに、知名度向上とイメージアップにより、来館者数の増加につなげていく必要があります。また、観光情報発信の拠点として、観光客の市内周遊性を高めるような、旬の観光情報の提供が望まれます。
- 温暖な気候と豊かな自然に恵まれた館山市は、食材の宝庫です。“食”の豊かさは市民にも都市住民にも高く評価されています。地域の農水産資源を活用した「食のまちづくり」は、農水産業の振興だけでなく、地域の魅力向上や観光客誘致、雇用創出にもつながる取組です。このため今後は、『たてやま食のまちづくり計画』に基づき、拠点施設の整備や生産者の育成支援などに継続的に取り組むとともに、「食のまちづくり」が、観光、雇用創出、健康、福祉、教育など多面的に効果を波及させていくよう、館山市全体が一体となって総合的に取り組むことが大切です。

### ■ 市民意識

交流拠点施設を核とした地域活性化	満足・やや満足	7.1%
	どちらでもない	60.6%
	やや不満・不満	20.3%

■ 施策の展開

(1) 交流拠点施設を核とした地域活性化

計画事業名	事業内容	担当課
交流拠点「渚の駅」たてやま」機能強化事業	「渚の駅」たてやま」の機能強化と魅力向上により、来館者の更なる増加を図るとともに、観光情報の発信拠点として、旬の観光情報を提供し、市内観光の周遊性を高めることで、観光の振興と地域経済の活性化を推進します。	観光みなと課
<b>重点</b> 「食のまちづくり」の推進による地域産業の活性化	地域内の流通システムを構築し、地元食材の活用や新たな特産加工品の開発・提供を支援するなど、多彩な食資源の流通拠点となる「食のプラットフォーム」という位置付けで、「食のまちづくり」拠点施設を整備します。また、地産地消や6次産業化等、農林漁業振興活動に対し、「地域おこし協力隊*」制度等を活用することで、地域振興の新たな担い手の育成と地域への定着を図ります。	食のまちづくり推進課

■ 成果指標・目標

指標名	現状値	目標値
「渚の駅」たてやま」年間来館者数	37万人	50万人
農水産物等の加工品開発数	0品目	(5カ年累計) 5品目

